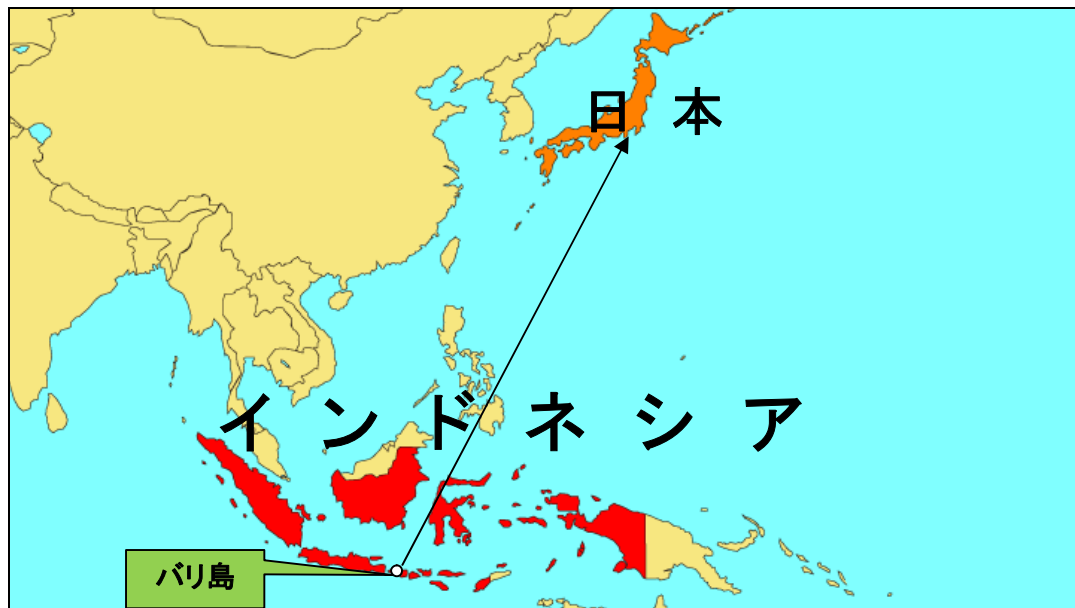


インドネシアから日本へのデング熱輸入例

2010年3月29日 ProMED 情報(国立感染症研究所)



インドネシア・バリ島を訪れた6名の旅行者が日本に帰国後、今年2月及び3月にデング熱と診断されました。6名とも帰国時ウイルス血症(血液中にウイルスが存在する病態)の状態、デングウイルスのゲノム(染色体の一部)が血中より遺伝子検査(リアルタイムPCR)によって検出されました。検査の結果は、デングウイルス1型(DENV-1)が2名、デングウイルス2型(DENV-2)が2名、デングウイルス4型(DENV-4)が1名でした。残りの1名は抗デングIgM抗体とIgG抗体およびデングウイルス(DENV NS-1)抗原が検出されデング熱と診断されました。

デングウイルス3型とデングウイルス4型の検出は、以前は、2008年にバリ島から帰国した旅行者で報告されました。

最近の2ヶ月以内にバリ島からの帰国者にデングウイルス1型、デングウイルス2型、デングウイルス4型が検出された報告は、現在、これらのデングウイルス血清型がバリ島で循環していることを示唆しています。今年2月のバリ島でのデング熱流行に関するProMED情報(20100222.0597)と一致しています。

1つのデングウイルス血清型への感染は、他の血清型への感染が防げるわけではありません。バリ島といった人気がある観光地で、少なくとも3つのデングウイルス血清型が同時に循環することは、地元住民と旅行者の双方にデング熱ウイルス再感染の危険性を増大させます。輸入例6名中の1名(90歳男性)は、

デングウイルス再感染が血清学的に確認されました。

また、ウイルス血症をおこした海外旅行者は、ヒトスジシマカのような媒介蚊が生息する日本のようなデング熱非流行地域でのデングウイルスの伝播の危険性を増加させます。このため、海外旅行者によるデングウイルスの伝播の危険性に対する広報活動を高める必要があります。